

33 国産花きイノベーション推進事業

【751（702）百万円】

対策のポイント

国産花きのシェア奪還と輸出拡大を図るため、需要期にあわせた高品質な切り花の低コスト安定供給体制の構築、植木・盆栽の生産体制の強化に必要な育苗期間短縮化の取組等を支援します。

<背景／課題>

- ・平成26年12月に施行された「花きの振興に関する法律」の理念の実現に向けて、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大のための取組を推進し、国産花きのシェア奪還と輸出拡大を図ることが必要です。
- ・市場や小売店等の実需者からは、需要期にあわせて輸入される切り花に対抗できる高品質な国産切り花や、海外からのニーズが強い植木・盆栽の生産・供給体制の強化が求められています。

政策目標

- 国産花きの産出額の拡大（3,785億円（平成25年）→5,000億円（平成32年））
- 国産花き輸出額の増大（81億円（平成27年）→150億円（平成31年（平成32年から1年前倒し）））

<主な内容>

1. 花き関係者の連携への支援

生産者、研究機関、流通関係者、販売事業者等花き業界関係者が一堂に会して戦略を策定する協議会の運営等を支援します。

2. 国産花きの強みを活かす生産・供給体制の強化

広域連携による花き加工技術の向上の取組や、日持ち性向上のための管理技術の導入、物流の効率化等に対する支援のほか、新たに需要期にあわせて高品質な切り花を低コストで安定供給するのに必要なハウス内温度処理の新技术や、植木・盆栽の生産体制の強化に必要な大型挿し穂の利用等による育苗期間短縮化技術の実証を支援します。

3. 国産花きの需要拡大

フラワーコンテスト・花文化展示会の開催、花育の普及及び指導者向け研修、オフィスや介護施設等での花や緑の利用、異業種との連携によるプロモーション活動等を効果的に推進します。

（補助率：定額、1／2以内
事業実施主体：協議会、民間団体等）

（お問い合わせ先：

生産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室（03-6738-6162））

国産花きイノベーション推進事業(拡充)

平成29年度予算概算決定額 751(702)百万円

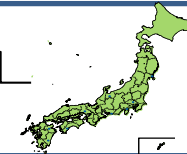
○ 国産花きのシェア奪還と輸出拡大を図るため、需要期にあわせた高品質な切り花の低コスト安定供給体制の構築、植木・盆栽の生産体制の強化に必要な育苗期間短縮化の取組等を支援。

1. 花き関係者の連携への支援

- 都道府県毎に、生産者、研究者、流通・販売業者、輸出事業者等花き業界の関係者が一堂に会した協議会で地域の花きの振興策等を検討



協議会の開催



技術交流会の開催

下線は拡充部分

2. 国産花きの強みを活かす生産・供給体制の強化

- 多様な品種を有し品質の高い国産花きの強みを活かす生産・供給体制の強化に向けた、①広域連携による花き加工流通の実証、②物流の効率化、③日持ち性向上のための管理技術の導入等を支援
- 輸入品に対抗できる国産切り花の安定供給を図るため、ハウス内の温度処理で品質低下を抑える新技術(例:※EOD-heating)等の実証や気象条件に左右されない品種の選定により、需要期にあわせて高品質な切り花を低コストで生産・出荷する取組を支援

※日没前後の短時間変温処理技術(EOD-heating)

日没前後の温度処理により、生産コストの削減や慣行栽培と同程度の品質、生育を確保できる技術。

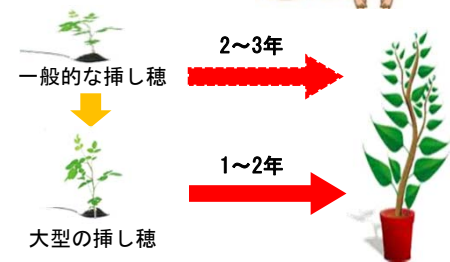
- 植木・盆栽の輸出拡大に向けた生産体制の強化を図るため、大型挿し穂の利用や育苗時の肥培管理の工夫等の実証により育苗期間を短縮する取組を支援

(切り花の現状)

- 需要期(お盆、お彼岸等)にあわせて安価な切り花が大量に輸入
- 国産ニーズはあるものの、産地の供給力が不足

(植木・盆栽の現状)

- 日本庭園向けやBONSAIブームにより、海外からの植木・盆栽に対する強いニーズ
- 国内生産体制の脆弱化で、輸出可能な植木・盆栽がなくなるおそれ



3. 国産花きの需要拡大

- 国産花きの需要拡大に向けた、①フラワーコンテスト・花文化展示会の開催、②花育や花きの効用の普及、③オフィスや介護施設等での花や緑の利用、④異業種との連携によるプロモーション活動等を効果的に推進

くらしの中に花を取り入れましょう!

